



IBM System x

**IBM Hardware Management Pack for
Microsoft System Center Operations Manager
リリース情報**

バージョン 5.0





IBM System x

**IBM Hardware Management Pack for
Microsoft System Center Operations Manager
リリース情報**

バージョン 5.0

— お願い —

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、27 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

Edition Notice

This edition applies to version 5.0 of IBM Hardware Management Pack for Microsoft System Center Operations Manager, and to all subsequent releases and modifications until otherwise indicated in new editions.

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM System x
IBM Hardware Management Pack for
Microsoft System Center Operations Manager
Release Notes
Version 5.0

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2014.

目次

本書について	v
規則および用語	v

PDF ファイル	vii
--------------------	-----

World Wide Web リソース	ix
-------------------------------	----

第 1 章 概説	1
--------------------	---

第 2 章 本リリースについて	3
---------------------------	---

このリリースの新機能	3
IBM Hardware Management Pack v5.0 の内容	3
ファイルおよびレジストリーのロケーション	4

第 3 章 既知の制限	5
-----------------------	---

インストール、アンインストール、およびアップグレードに関する問題	5
--	---

1. UAC がオンになっている場合、インストール関連のアクティビティを「コントロール パネル」または MSI ファイル経由で直接管理しようとする と失敗する	5
2. デフォルト管理パックに保存されているオーバーライドが原因で、Hardware Management Pack を 削除できない	5
3. Hardware Management Pack を削除するとき、管理対象システムで「スクリプトまたは実行可能ファイル を実行できない (Script or executable failed to run)」アラートが発生する	6
4. Windows Server 2008 上で Hardware Management Pack を Operations Manager から削除 すると、「スクリプト実行中」に関するアラートが出される	6
5. Hardware Management Pack を削除した直後、Operations Manager コンソールにエラーが表示 される	6
6. Hardware Management Pack がインポートされた後、「ハンドル・カウントしきい値超過 (Handle Count Threshold Exceeding)」エラーが報告される	7
7. 新しくインストールされた Hardware Management Pack の外部技術情報にアクセスする ためには、Operations Manager コンソールを再始動する必要がある	7
8. リモート・ブレードのオン/オフおよびシャットダウン・タスクのためのディレクトリー・パスを更 新するためには Operations Manager コンソールを再始動する必要がある	8
9. アンインストールを確認するダイアログ・ボックスが処理バーに妨害される	8
サーバー・ハードウェア・コンポーネントのディスカバリーに関する問題	9

1. 管理対象システムが Operations Manager に追加された後、すべてのハードウェア・コンポーネント が Operations Manager 状態ビューに表示されるまで数分かかる	9
2. Director エージェント 6.1.x 以降において、RSA-II があっても BMC が古いシステムでは、RSA-II デーモンがインストールされ、動作していても、Director エージェントの互換性に関するクリティカル・アラート が出される	9
3. ある特定のクラスの System x システムのハードウェア・コンポーネントが、Microsoft IPMI ドライバーで 検出されない	10
4. ブレード・サーバーで電源機構、ファン、温度センサー、または電圧センサーが検出されない	10
5. Director コア・サービス 5.20.31 が入っている xSeries 335 システムで、電源機構が検出されない	10
6. Director プラットフォーム・エージェント 6.2.1 以降が入っている IBM System x3755 M3 システムで、 電源機構が検出されない	11
7. いくつかの RAID コントローラー名が、テキストで読むことができるフォーマットではなく、シリアル番号で 表示される	11
8. 古い管理コントローラー (サービス・プロセス) が検出されない	11
9. マルチノードおよびマルチインスタンス・マシンにおける電源キャッピング・サポートの制限	12
10. Power Capping Capable の値が false であっても、他の電源キャッピング・プロパティ (Power Maximum、Power Minimum、Power Cap など) が ゼロ以外の値になっている	12
11. SetPowerCapping タスクが SCOM コンソールで機能しない	12
サーバー・ハードウェアのヘルス・モニターに関する問題	13
1. すべてのシステムで、すべてのハードウェア・イベントが報告可能イベントというわけではない	13
2. 管理システム上の一時ディスク・スペースを使い果たすと、ヘルス・モニターとイベント・アラートが 行われなくなる	13
3. 一部のハードウェア・アラートに、手動のヘルス・リセットが必要	15
4. オフラインの管理対象システムがオンラインになって Operations Manager に再接続されるまで、 そのシステムのアラートおよびイベントは Operations Manager コンソールに表示されない	15
5. 管理対象システムから切断されている NIC が、Windows で無効になっていても、「オフライン」 エラーと報告される	16
6. 異なるバージョンの IBM Director エージェントが、同じハードウェア・イベントについて異なる 重大度を報告する	16

7. WinEvent ツールで生成されたイベントはすべて、1 つのモニターで報告される	16	6. BladeCenter メディア・モジュールが、メディア・トレイの部品番号およびシリアル番号として空の値を報告する	21
8. Director エージェント 5.10.x で WinEvent によって生成された未解決のエラーが、(手動で Operations Manager からクリアされた後でも) 定期ヘルス・チェックアップ・モニターによって継続的に報告される	17	7. AMM に極度の負荷がかかっている場合、BladeCenter はすべての SNMP トラップを送信できない	22
9. IBM リモート管理アダプター (RSA) II でのログオンまたはログオフについて、Operations Manager でイベントが生成されない	17	8. BladeCenter メディア・モジュールのモジュール名が、一定期間「使用不可 (Not available)」と表示されることがある	22
10. RSA-II イベント・ログがキャパシティーしきい値を超えているか、またはフルになっている場合、Operations Manager でアラートが生成されない	17	Operations Manager に関するヒント	22
11. OSA IPMI ドライバーをアンインストールしても、予期される「ソフトウェアが見つからない」エラーが表示されない	18	1. 管理パックを削除して再インポートする動作が速すぎると、その管理パックで検出されたオブジェクトが消える	22
12. Hardware Management Pack がインストールされていない Operations Manager 管理サーバーで、Hardware Management Pack についての外部ハードウェア技術情報が使用できない	18	2. 管理対象サーバーが複数の管理グループで管理されている場合、異なるヘルス状態が表示されることがある	23
13. System x Power Data Chart がマルチノード・サーバーで使用できない	18	3. 状態変更が最上位レベルにロールアップされるまで、長い時間がかかる	23
BladeCenter とそのモジュールのディスカバリーに関する問題	19	4. Operations Manager 状態ビューで、左右にスクロールしただけでデータが消える	23
1. BladeCenter AMM と、複数の NIC を持つ管理サーバーとの間に複数のネットワーク接続がある場合、その管理サーバーは、BladeCenter を確実に検出することができない	19	5. Operations Manager コンソールを使用してヘルス状態をリセットした後、状態ビューの最上位レベルまで状態がロールアップされるまでに 2 分以上かかる	23
2. BladeCenter の完全ディスカバリーに時間がかかる	19	6. 一部の Operations Manager オブジェクトの Path プロパティの値が空か、または正しくない	24
BladeCenter のヘルス・モニターに関する問題	20	7. 管理パックを削除して再インポートした後であっても、Operations Manager 状態ビューのビューおよび列がデフォルト設定に戻らない	24
1. Operations Manager 2007 は、Windows Server 2008 で SNMP トラップ・データを受信できない	20	8. Operations Manager ダッシュボード・ビューのビューそれぞれの高さを個別に調整できない	24
2. Microsoft の Network Device Monitoring Library がインポートされている場合、その重大度に関係なく、クリティカルな「SNMP トラップ生成アラート」が BladeCenter イベントごとに報告される	20	9. 「すべての IBM System x および x86/x64 ブレード・サーバー (All IBM System x and x86/x64 Blade Servers)」状態ビューでブランク・スペースを右クリックしても、コンテキスト・メニューが表示されない	25
3. 基本管理モジュールを BladeCenter から削除しても、Operations Manager に対してアラートは生成されない	21	10. Operations Manager 2007 SP1 エージェントが、Windows 7 または Windows Server 2008 R2 が稼働しているコンピューターにインストールされている場合、警告アラート「Processing backlog events taking long time error」が表示される	25
4. BladeCenter ストレージ・モジュールがモニターされない	21	11. Operations Manager コンソールに中国語 (簡体字) の文字列が表示される	25
5. BladeCenter マルチスロット・ワイド・ブレードが、シングルスロット・ワイドとして報告される	21	特記事項	27
		商標	29

本書について

本書には、IBM® Hardware Management Pack for Microsoft® System Center Operations Manager バージョン 5.0 オファリングにおける追加情報、コメント、および既知の制限が記載されています。

規則および用語

太字の「注」、「重要」、または「注意」で始まっているパラグラフは、重要な情報を強調する特定の意味を持つ注意書きです。

注: これらの特記事項は重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供します。

重要: これらの特記事項は、不都合なまたは困難な状態を避けるために役立つ情報またはアドバイスを提供します。

重要: また、これらの特記事項では、プログラム、デバイス、またはデータへの考えられる損傷を示します。損傷が起こりうる指示または状態の前には警告通知が表示されます。

PDF ファイル

PDF 形式で提供されている資料を表示および印刷します。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

PDF ファイルを表示または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。コピーを Adobe Reader Web サイトからダウンロードすることができます。

PDF ファイルの表示と印刷

IBM System x Integration Offerings for Microsoft Systems Management Solutions Web サイトにある PDF ファイルは、すべて個別に表示または印刷が可能です。資料ごとの製品ページを見つけるには、用意されているリンクをクリックしてください。

World Wide Web リソース

以下の Web ページでは、IBM System x、BladeCenter サーバー、およびシステム管理ツールの理解、使用、およびトラブルシューティングに役立つリソースが提供されています。

IBM System x Integration Offerings for Microsoft System Management Solutions

IBM System x Integration Offerings for Microsoft Systems Management Solutions

IBM® Hardware Management Pack for Microsoft System Center Operations Manager v5.0 用の最新のダウンロードがあります。

IBM Systems のサポート

IBM Systems のサポート

IBM Systems テクニカル・サポートを得られます。

IBM Systems Director: ダウンロード・ソフトウェア登録

IBM Systems Director: Downloads

IBM Systems Director などの IBM システム管理ソフトウェアをダウンロードします。

IBM システム管理ページ

IBM systems management solutions for System x

この Web ページには、IBM システム管理の概説があります。

IBM ServerProven ページ

System x および xSeries ServerProven: IBM ServerProven Compatibility for hardware, applications, and middleware

BladeCenter ServerProven: IBM ServerProven Compatibility for BladeCenter products

IBM System x、xSeries サーバー、および IBM BladeCenter® とのハードウェア互換性に関する情報を得られます。

Microsoft System Center Operations Manager

Technet: Systems Center Operations Manager

Microsoft System Center Operations Manager に関する情報が得られます。ここでは、操作上の問題を解決するために、IBM および Microsoft のアプリケーションと、オペレーティング・システムの知識を使用して、大規模な組織の全体でご使用の IBM システムをモニターする方法について説明しています。

第 1 章 概説

IBM Hardware Management Pack for Microsoft System Center Operations Manager v5.0 を使用すれば、Microsoft System Center Operations Manager の拡張機能を使用して、IBM System x サーバー、ブレード、BladeCenter シャーシ、計算ノード、および Flex System シャーシのヘルス状態を管理することができます。

Hardware Management Pack によって、IT インフラストラクチャーにおけるヘルスの全体的なビューが完全なものになるため、ビジネスを継続的に推進し、またハードウェア問題によるダウン時間を最小限にすることができます。

IBM Hardware Management Pack の主なフィーチャー:

- BladeCenter シャーシ、Flex System シャーシ、および SNMP プロトコルを使用するモジュールのヘルスの多様なモニター。
- Windows が稼働している IBM System x サーバー、BladeCenter x86/x64 ブレード、Flex System x86/x64 計算ノードのハードウェア・コンポーネントのヘルスの広範囲なモニター。
- IBM ハードウェアを管理するためのソフトウェア・スタックのヘルスの包括的モニター。
- ハードウェア・ヘルス・モニターの集計による、システム全体のヘルスの容易な判別。

第 2 章 本リリースについて

このセクションのトピックには、現行リリースに特定の情報が含まれています。

このリリースの新機能

IBM Hardware Management Pack v5.0 には、以下の機能が追加されています。

- Microsoft System Center Operations Manager 2012 および追加のハードウェア現行性を使用する。
- 予測障害アラート (PFA) ポリシーを Brickman ベース・システムの IMM に設定する。

IBM Hardware Management Pack v5.0 の内容

IBM Hardware Management Pack v5.0 には以下が含まれています。

- 7 個の管理パック:
 - IBM Hardware Management Pack - 共通ライブラリー
 - IBM System x および x86/64 ブレード・システム対応 IBM Hardware Management Pack
 - IBM BladeCenter シャーシおよびモジュール対応 IBM Hardware Management Pack
 - IBM Hardware Management Pack - ハードウェア ID ライブラリー
 - IBM Hardware Management Pack - 関係ライブラリー
 - IBM Flex System シャーシおよびモジュール対応 IBM Hardware Management Pack
 - IBM Hardware Management Pack - Flex 関係ライブラリー
- Hardware Management Pack が Operations Manager とどのように統合されているかには関係のない、ハードウェア・イベントに関する詳細を記載している、ハードウェア技術情報
- BladeCenter を管理するためのサポート・コード
- Flex System シャーシを管理するためのサポート・コード

ファイルおよびレジストリーのロケーション

デフォルトで、Hardware Management Pack の内容はディレクトリー
%ProgramFiles%\IBM\IBM Hardware Management Pack にインストールされます。

Hardware Management Pack によって使用されるレジストリー・パスは
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\IBM\System Management Integrations\IBM HW Mgmt
Pack for OpsMgr です。

Hardware Management Pack では、システム全体にわたる環境変数も使用されます。
IBM_DIR_KB は、ハードウェア技術情報を含むディレクトリーを指します。
IBM_DIR_VBS は、ブレード・サーバーのリモート側での電源オン/オフのためのタ
スクが入っているプログラム・ディレクトリーを指します。

第 3 章 既知の制限

このセクションのトピックには、IBM Hardware Management Pack for Microsoft System Center Operations Manager バージョン 5.0 に該当する制限、問題、および回避策に関する情報があります。

インストール、アンインストール、およびアップグレードに関する問題

以下の問題は、Hardware Management Pack バージョン 5.0 のインストール、アンインストール、およびアップグレードに関連するものです。

1. UAC がオンになっている場合、インストール関連のアクティビティを「コントロール パネル」または MSI ファイル経由で直接管理しようとするすると失敗する

Windows 2008 以降を実行しているとき、インストール関連のアクティビティ（アンインストールなど）を、「コントロール パネル」または MSI ファイルで直接管理しようとしても、ユーザー・アクセス制御 (UAC) がオンになっている場合、そのプロセスは失敗します。

回避策: インストール関連のアクティビティを実行するには、事前に「コントロール パネル」で UAC をオフにしておくか、または指定されているローカル管理者アカウントでアクティビティを操作してください。

2. デフォルト管理パックに保存されているオーバーライドが原因で、Hardware Management Pack を削除できない

Hardware Management Pack を Operations Manager から削除しようと試みると、以下のようなメッセージが表示されます。

Remove the Default Management Pack first before removing the Management Pack because of dependency. You cannot delete the Management Pack without removing the dependent management packs.

このメッセージは、規則またはモニターについてのオーバーライドが、デフォルト管理パックに少なくとも 1 つ保存されていることを意味します。メッセージに示されているように、オーバーライドは、デフォルト管理パックまたはその他の管理パックに保存できます。

解決策: これらのオーバーライドを後で使用したい場合、デフォルト管理パック（またはメッセージに示されている管理パック）以外の管理パックにオーバーライドを保存してください。オーバーライドを保存した後、Operations Manager による問題を発生させた管理パックを削除し、その他の残りの管理パックも削除してください。Hardware Management Pack を Operations Manager にインポートし直すときに、ここで保存した管理パックをインポートして、オーバーライドを復元してください。

3. Hardware Management Pack を削除するとき、管理対象システムで「スクリプトまたは実行可能ファイルを実行できない (Script or executable failed to run)」アラートが発生する

エージェント・ベースの管理対象システムでは、さまざまなタイミングで Hardware Management Pack のスクリプトが Operations Manager によって起動することがあります。

Hardware Management Pack の削除中に、Hardware Management Pack に定義されているスクリプトが動作している場合、スクリプト障害が発生します。この障害によって、対応するアラートが Operations Manager に出されます。

回避策: この場合、アラートは無視してもかまいません。障害が発生しないようにするには、Hardware Management Pack を Operations Manager から削除する前に、管理サーバーを保守モードにしてください。

4. Windows Server 2008 上で Hardware Management Pack を Operations Manager から削除すると、「スクリプト実行中」に関するアラートが出される

Hardware Management Pack に定義されているスクリプトが動作している間に Hardware Management Pack を削除すると、スクリプトが実行中で、そのスクリプトが入っているファイルが削除されることを通知するメッセージ・ダイアログ・ボックスが表示されます。

「無視」をクリックしてアンインストールを続行することができます。このスクリプトが動作しているサーバーに影響はありません。

解決策: Hardware Management Pack を Operations Manager から削除する前に、管理サーバーを Operations Manager 保守モードにしてください。

5. Hardware Management Pack を削除した直後、Operations Manager コンソールにエラーが表示される

Hardware Management Pack を Operations Manager から削除した直後、一連のエラーが Operations Manager コンソールに表示される場合があります。GUI フォーカスが、削除された Hardware Management Pack とビューを共有していることが原因です。

エラーの例:

無効な列名 ...

解決策: このエラーと、関連するエラー (コレクションが変更されたなど) は無視してください。この状態では、列挙操作が行われない可能性があることに注意してください。

6. Hardware Management Pack がインポートされた後、「ハンドル・カウントしきい値超過 (Handle Count Threshold Exceeding)」エラーが報告される

Operations Manager 管理サーバーで、Hardware Management Pack がインポートされた後、「ハンドル・カウントしきい値超過 (handle count threshold exceeding)」というアラートが表示されることがあります。

このエラーについて詳しくは、Windows コンピューター上の Operations Manager のヘルス・エクスプローラーで、このエラーが表示されている管理サーバーを開いて、「パフォーマンス」 > 「Windows ローカル・アプリケーション・ヘルス・ロールアップ (Windows local Application Health Rollup)」 > 「パフォーマンス」 > 「ヘルス・サービスのパフォーマンス (Health Service Performance)」 > 「ヘルス・サービス (Health Service)」 > 「ハンドル・カウントしきい値 (Handle Count Threshold)」をクリックします。次のメッセージを見つけてください。

Too many rules and monitors are loaded from all the management packs that this Health Service has been configured with.

解決策: Microsoft の知識ベース記事 (<http://support.microsoft.com/kb/968760>) に記載されているフィックスを、Microsoft .NET Framework 2.0 に適用してください。この記事では、Microsoft .NET Framework 2.0 において多くのスレッド・ハンドルとイベント・ハンドルを持つ管理対象アプリケーションについて記載されています。

また、Microsoft Operations Manager Support Team Blog の記事 (<http://blogs.technet.com/operationsmgr/archive/2009/04/02/opsmgr-2007-monitoringhost-exe-or-healthservice-exe-may-have-a-high-10000-handle-count-and-restart.aspx>) も参照してください。

回避策: このエラーが発生するたびに、「ヘルス サービス」を再起動し、ヘルス状態を手動でリセットしてください。

注: 手動でのヘルス状態のリセットは、この問題における一時的な対処に過ぎません。これを行うと、Operations Manager のパフォーマンスとヘルス・モニターの継続性に悪影響が及ぶ可能性があります。

7. 新しくインストールされた Hardware Management Pack の外部技術情報にアクセスするためには、Operations Manager コンソールを再始動する必要がある

Hardware Management Pack のインストール中に Operations Manager コンソールが開いたままになっている場合、または Hardware Management Pack のインストール・パスを変更した場合、Operations Manager コンソールを再起動するまでハードウェア技術情報へのリンクは使用できません。

これらのリンクは、Hardware Management Pack に定義されているモニターの技術情報の内部にあり、Operations Manager 状態ビューでは「アクション」ペインにタスクとして表示されます。

回避策: リンクがハードウェア技術情報の新しいセットアップ・ロケーションを指すよう、Operation Manager コンソールを閉じてから開き直してください。

8. リモート・ブレードのオン/オフおよびシャットダウン・タスクのためのディレクトリー・パスを更新するためには Operations Manager コンソールを再始動する必要がある

Hardware Management Pack のインストール中に Operations Manager コンソールが開いたままになっている場合、Operations Manager コンソール環境で、リモート・ブレードのオン/オフおよび OS のシャットダウン・タスクにおけるプログラム・ディレクトリー・パス情報が失われます。

この問題によって、次のエラー・メッセージが出されます。

Input Error: Cannot find script file

%IBM_DIR_VBS% がプログラム・ディレクトリー・パスにあれば、リモート・ブレードの電源オン/オフおよび OS のシャットダウン・コンソール・タスクが要求されます。

回避策: 新しいプログラム・ディレクトリー・パス %IBM_DIR_VBS% が Operations Manager コンソール環境に正しく定義されるよう、Operations Manager コンソールを閉じてから開き直してください。

9. アンインストールを確認するダイアログ・ボックスが処理バーに妨害される

システム・コントロール・パネルを使用して製品をアンインストールする際、アンインストール・プロセスの最後に確認メッセージ・ダイアログ・ボックスが表示されますが、インストール・プログラムの処理バーがこれを妨害するため、ユーザーはアンインストールを確認できません。

回避策: 次の 2 つの回避策が使用可能です。

- 下にあるアンインストール確認ウィンドウをクリックしてアクティブにし、次に「OK」をクリックしてアンインストールを完了します。
- 「スタート」メニューからアンインストール・ショートカット・オプションを使用して、製品をアンインストールします。この方法を使用した場合、確認メッセージ・ダイアログは妨害されません。

サーバー・ハードウェア・コンポーネントのディスカバリーに関する問題

これらの問題は、サーバーまたはそのハードウェア・コンポーネントのディスカバリーに関連しています。

1. 管理対象システムが Operations Manager に追加された後、すべてのハードウェア・コンポーネントが Operations Manager 状態ビューに表示されるまで数分かかる

管理対象システムが Operations Manager に追加された後、そのシステムが Operations Manager コンソールに表示されるまで 3 分以上かかることがあります。また、ハードウェア・コンポーネントおよびヘルス状態のすべてが完全に Operations Manager コンソールに取り込まれるまで、6 時間ほどかかることもあります。

ハードウェア・ヘルス・モニターのための管理対象システム上での CPU 所要量を制限するため、IBM Hardware Management Pack には、IBM サーバー内のハードウェア・コンポーネントの段階的なディスカバリーが実装されています。新しく追加されたシステムが初期ディスカバリーを完了するまで、長い時間がかかります。

解決策: 管理下にあるラボ環境では、プロセスを高速で行うために、(Operations Manager の作成コンソールで) ディスカバリー間隔をより短い間隔にオーバーライドすることができます。管理対象システムのプロセッサへの過負荷を避けるためには、このようなオーバーライドは慎重に行ってください。オーバーライドについては、Operations Manager のオンライン・ヘルプを参照してください。

もう 1 つのオプションとして、Operations Manager コンソールを定期的に手動で最新表示して、コンソールに最新データを表示することもできます。

2. Director エージェント 6.1.x 以降において、RSA-II があっても BMC がない古いシステムでは、RSA-II デーモンがインストールされ、動作していても、Director エージェントの互換性に関するクリティカル・アラートが出される

Director エージェント 6.1.x 以降では、RSA-II があっても BMC がないシステムはサポートされていません。RSA デーモンがインストールされ、問題なく動作していても、Hardware Management Pack は、この状態のシステムに対して意図的にアラートを出します。

この状態にあるシステムのハードウェア・ヘルスは、正しくモニターされません。

回避策: RSA-II のみを搭載し、BMC を搭載していないシステムでは、Director コア・サービス 5.20.31 を使用してください。

3. ある特定のクラスの System x システムのハードウェア・コンポーネントが、Microsoft IPMI ドライバーで検出されない

Microsoft Intelligent Platform Management Interface (IPMI) ドライバーは、ベースボード管理コントローラー (BMC) との通信を行うため、システム BIOS が指定の ACPI 名前空間に BMC を公開することを必要とします。

Microsoft IPMI ドライバーが稼働していても、BMC を指定の ACPI 名前空間に公開する BIOS レベルがないシステムでは、必要な BIOS アップデートを指示するクリティカル・アラートが出されます。

このカテゴリに該当する最新の System x サーバーのリストについては、「IPMI tasks/applications cannot access the on-board BMC - IBM System x」を参照してください。

回避策: このようなシステムでは、Microsoft IPMI ドライバーを使用しないでください。代わりに、OSA IPMI ドライバーを使用してください。

注: OSA IPMI ドライバーは Windows Server 2003 以前でサポートされていますが、Windows 2008 以降ではサポートされていません。適切な IPMI スタックがなければ、システムのハードウェア・ヘルスをモニターすることはできません。

4. ブレード・サーバーで電源機構、ファン、温度センサー、または電圧センサーが検出されない

BladeCenter において、電源機構、冷却ファン、温度センサー、および電圧センサーは、すべてシャーシの共有コンポーネントです。ブレード・サーバーそれ自体には、そのサーバーの外側の情報はありません。そのため、ブレード・サーバーの電源機構、ファン、温度センサー、または電圧センサーのインスタンスが検出されることはありません。

解決策: まず、Hardware Management Pack に組み込まれている BladeCenter 管理パックで BladeCenter をモニターし、ブレード・サーバーの *M/T-S/N* 値を使用して対応する BladeCenter を見つけ、BladeCenter の共有コンポーネントのヘルス状態を監視してください。

5. Director コア・サービス 5.20.31 が入っている xSeries 335 システムで、電源機構が検出されない

Director コア・サービス 5.20.31 が入っている xSeries 335 システムでは、電源機構インスタンスが検出されません。

解決策/回避策: 現時点ではありません。

6. Director プラットフォーム・エージェント 6.2.1 以降が入っている IBM System x3755 M3 システムで、電源機構が検出されない

Director プラットフォーム・エージェント 6.2.1 以降が入っている IBM System x3755 M3 システムでは、電源機構インスタンスが検出されません。

解決策/回避策: 現時点では回避策はありません。

7. いくつかの RAID コントローラー名が、テキストで読むことができるフォーマットではなく、シリアル番号で表示される

詳細ビューにおいて、IBM システム・ストレージのインスタンス名 (ServeRAID-MR、MegaRAID、ServeRAID-BR、または Integrated RAID) が、読むことができるフォーマット (*LSI MegaRAID SAS Adapter* など) ではなく、シリアル番号で表示されることがあります。つまり、*IBM.500605B000A8F214* のように表示されます。このシリアル番号フォーマットは、インスタンス詳細ビュー、「ヘルス エクスプローラー」ビュー、または「アラートのソース」列に表示される可能性があります。

解決策/回避策: 現時点では回避策はありません。

8. 古い管理コントローラー (サービス・プロセッサ) が検出されない

Advanced Systems Management (ASM) PCI アダプター、ASM プロセッサ (ASMP)、Integrated Systems Management Processor (ISMP) といった古いサービス・プロセッサは、Hardware Management Pack によって検出されません。ただし、このような古いサービス・プロセッサが管理しているハードウェア・コンポーネントは、それらの構成をサポートする IBM Director エージェントのバージョン (例えば 5.20.31) で検出することができます。

解決策: IT インフラストラクチャーにおけるハードウェア・ヘルス全体をカバーするには、ベースボード管理コントローラー (BMC) サービス・プロセッサ、リモート管理アダプター (RSA) II、または統合管理モジュール (IMM) が装備されている、より新しいシステムにアップグレードしてください。

また、管理コントローラー用の最新のサポート対象ファームウェアをインストールしてください。

9. マルチノードおよびマルチインスタンス・マシンにおける電源キャッピング・サポートの制限

System Center Operations Manager における「電源キャッピングの設定 (Set Power Capping)」タスクは、マルチノードおよびマルチインスタンス電源システム (2 ノード・サーバーや MAX5 メモリー拡張装置が接続されているサーバーなど) をサポートしていません。マルチノード・システムでは、「電源キャッピングの設定 (Set Power Capping)」タスクはシステム内の最初の (1 次) ノードにのみ影響し、関連する電源キャッピング・データは最初の (1 次) ノードにのみ適用されます。

MAX5 装置が接続されているマルチインスタンス・システムで「電源キャッピングの設定 (Set Power Capping)」タスクを実行しようと試みても、一般的なファームウェア・ベースのエラー・コード 255 で、このタスクは失敗することがあります。MAX5 をサーバーから削除しておかないと、MAX5 が接続されているシステムに電源キャッピングを設定することはできません。

10. Power Capping Capable の値が false であっても、他の電源キャッピング・プロパティ (Power Maximum、Power Minimum、Power Cap など) がゼロ以外の値になっている

サーバーが電源キャッピング対応であるかどうかを示すのは、**Power Capping Capable** プロパティだけです。一部のサーバーで、電源キャッピング・プロパティ情報 (Power Maximum、Power Minimum、Power Cap など) が、そのサーバーで電源キャッピングがサポートされていなくても、ゼロ以外の値になっている場合があります。

このようなゼロ以外の値は、サーバーが電源キャッピング対応であることを示しているわけではありません。このサーバーに電源キャッピング・フィーチャーが必要な場合は、「*IBM Hardware Management Pack for MS SCOM v5.0 インストールおよびユーザーズ・ガイド*」のセクション『IBM Power CIM Provider のインストール』および『トラブルシューティング』を参照してください。

11. SetPowerCapping タスクが SCOM コンソールで機能しない

「電源キャッピングの設定」タスクが SCOM コンソールで機能しません。

解決策/回避策:

- **PowerCapping** の有効化を試みる際に、**Pcap** 値が **Pmax** と **Pmin** の間にあることを確認します。
- 値を手動で設定するには、「*IBM Hardware Management Pack for MS SCOM v5.0 インストールおよびユーザーズ・ガイド*」の『トラブルシューティング』セクションを参照してください。

サーバー・ハードウェアのヘルス・モニターに関する問題

これらの問題は、サーバーまたはそのハードウェア・コンポーネントのヘルス・モニターに関連しています。

BIOS/UEFI、BMC/IMM、および他のコンポーネント用のシステム・ファームウェアを最新のものに保っておくことが重要です。最新のシステム・ファームウェアについては、<http://www.ibm.com/support/us/en/> で「IBM Support and downloads」サイトにアクセスしてください。

1. すべてのシステムで、すべてのハードウェア・イベントが報告可能イベントというわけではない

ヘルス・モニターはハードウェアの能力、ファームウェア・サポート・レベル、および管理ソフトウェア・サポート・レベルによって異なります。例えば、システムに物理的な電源機構が複数あっても、すべての電源機構が装着されていて管理可能というわけではありません。

ハードウェア・ヘルス・イベントは、ハードウェア・プラットフォームに固有のもので、すべてのハードウェア・イベントが、すべてのハードウェア・プラットフォームに対する報告可能イベントとしてサポートされているわけではありません。

これは、IBM Hardware Management Pack における通常の動作です。

回避策: IT インフラストラクチャーにおけるハードウェア・ヘルス全体をカバーするには、ベースボード管理コントローラー (BMC) サービス・プロセッサ、リモート管理アダプター (RSA) II、または統合管理モジュール (IMM) が装備されている、より新しいシステムにアップグレードしてください。

また、管理コントローラー用の最新のサポート対象ファームウェアをインストールしてください。

2. 管理システム上の一時ディスク・スペースを使い果たすと、ヘルス・モニターとイベント・アラートが行われなくなる

IBM Hardware Management Pack は、クライアント・サイド・スクリプトを使用してシステム・ヘルスをモニターしているため、管理対象システム上に一時作業ディスク・スペースを必要とします。この一時作業ディスク・スペースは、Operations Manager の「ヘルス サービス」によって管理されます。このディスク・スペースが使い尽くされると、Hardware Management Pack のスクリプトは動作できないため、ヘルス状態を正しく検出して Operations Manager に報告することができなくなります。

一時作業ディスク・スペースはデフォルトで、管理対象システム上の %TEMP% フォルダーからローカル・システム・アカウントに割り振られます。

注: ローカル・システム・アカウントは、Operations Manager の「ヘルス サービス」が動作するときのユーザー・アカウントです。管理対象システムのために予約しておくディスク・スペースの最小量として、推奨される大きさはありません。

この状態になると、Operations Manager 用の管理対象システム上の Windows イベント・ログに、以下の例のようなエントリーが書き込まれます。

例 1

Event Type: Warning
Event Source: Health Service Modules
Event Category: None
Event ID: 10363
Date: 4/20/08
Time: 17:24:04
User: N/A
Computer: A-X3650-RAID
Description: Module was unable to enumerate the WMI data

Error: 0x80041032
Details: Call cancelled

これによって、1 つ以上のワークフローが影響を受けました。

Workflow name: many
Instance name: many
Instance ID: many
Management group: scomgrp1

詳しくは、「イベントとエラー メッセージ センター」(<http://go.microsoft.com/fwlink/events.asp>) で調べてください。

例 2

Event Type: Error
Event Source: Health Service Modules
Event Category: None
Date: 04/20/08
Event ID: 9100
Time: 17:25:33
User: N/A
Computer: A-X3650-RAID
Description: An error occurred on line 105 while executing script 'MOM Backward Compatibility Service State Monitoring Script'
Source: Microsoft VBScript runtime error
Description: ActiveX component can't create object: 'GetObject'

これによって、1 つ以上のワークフローが影響を受けました。

Workflow name: System.Mom.BackwardCompatibility.ServiceStateMonitoring
Instance name: a-x3650-raid.Lab54.local
Instance ID: {EE77E6E4-5DC5-F316-A0CA-502E4CBFCB97}
Management group: scomgrp1

詳しくは、「イベントとエラー メッセージ センター」(<http://go.microsoft.com/fwlink/events.asp>) で調べてください。

回避策: ローカル・システム・アカウント用のフリー・ディスク・スペースを、管理対象システム上の %TEMP% フォルダでモニターし、必要に応じてフリー・ディスク・スペースを大きくしてください。

3. 一部のハードウェア・アラートに、手動のヘルス・リセットが必要

Hardware Management Pack は、大部分のハードウェア・アラートにおいて、ハードウェア・コンポーネントのヘルス状態を自動的にリセットすることがあります。コンポーネントのヘルス状態のリセットが適切であるかどうかを決定するための特定の情報がアラートに十分にある場合、リセットが発生します。

ただし、物理条件の情報が一般的すぎて、その物理条件が解決されているかどうか、または問題の正体が、IT 管理者による手動の確認応答が必要なセキュリティ上の懸念であるかどうかについて、Hardware Management Pack が判別できない場合があります。

以下の例は、手動のヘルス・リセットを必要とする、物理的なハードウェア障害のカテゴリを示しています。

- ・ 物理システムに対する潜在的なセキュリティ・ブリーチ (抜け穴) の問題
- ・ RAID またはディスク・ドライブに関連するハードウェア障害
- ・ 固有の情報が十分ではないハードウェア障害 (一般プロセッサ・エラーなど)
- ・ ハードウェア・プラットフォーム固有のハードウェア障害 (例えば、プロセッサ・チップの外部の温度センサーで検出されない過熱プロセッサの状態)

解決策: 各モニターおよびアラートについて Hardware Management Pack の技術情報を参照し、アラート、またはモニターの状態に対して手動でのヘルス・リセットが必要かどうかを確認してください。

4. オフラインの管理対象システムがオンラインになって Operations Manager に再接続されるまで、そのシステムのアラートおよびイベントは Operations Manager コンソールに表示されない

エージェント・ベースの管理対象システムのアラート、イベント、および状態変更はすべて、Operations Manager サーバーと通信している管理対象システム上のローカル Microsoft ヘルス・サービスによって異なります。Operations Manager サーバーと管理対象システムとの間のネットワーク接続が切れても、または何らかの理由で管理対象システムがオフラインになっても、Operations Manager サーバーに対するアラートもイベントも発生しません。

ネットワーク接続が再開されると、管理対象システムでローカル側に記録されているアラートおよびイベントが、Operations Manager サーバーに送られます。

管理対象システムと Operations Manager サーバーとの間の通信が完全に確立されると、以前に切断されていたシステムからの古いアラートおよびイベントが Operations Manager ビューに表示されることがあります。

解決策/回避策: 不要です。

5. 管理対象システムから切断されている NIC が、Windows で無効になっていても、「オフライン」エラーと報告される

NIC が Windows で（「コントロール パネル」または何らかの他の方法で）明示的に無効になっていても、Hardware Management Pack は、物理的に切断されている NIC に関するエラーおよびアラートを報告します。

Hardware Management Pack は NIC の物理的な状況を、それらの NIC と Windows OS との関係を考慮することなくモニターします。

解決策/回避策: 現時点では回避策ありません。ただし、NIC オフライン・アラート・モニターを無効にして、これらのエラーを無視することができます。モニターを無効にする方法については、Operations Manager オンライン・ヘルプを参照してください。

6. 異なるバージョンの IBM Director エージェントが、同じハードウェア・イベントについて異なる重大度を報告する

いくつかのハードウェア・イベントが、Director コア・サービス 5.20.31 ではクリティカル・エラーとして報告されても、同じイベントが Director プラットフォーム・エージェント 6.2.1 以降では警告として報告されることがあります。

解決策/回避策: 現時点では回避策はありません。

7. WinEvent ツールで生成されたイベントはすべて、1 つのモニターで報告される

IBM Director エージェント 5.20.x の一部である WinEvent ツール (WinEvent.exe) の目的は、Hardware Management Pack による管理対象システムと Operations Manager との接続を検証することだけです。WinEvent には、実際に起こりうるハードウェア・イベントをシミュレートするために必要な関連情報のすべてが完全に取り込まれているわけではありません。そのため、WinEvent で生成されたイベントはすべて、Hardware Management Pack では 1 つのモニターで報告されます。

解決策/回避策: 現時点では回避策はありません。

8. Director エージェント 5.10.x で WinEvent によって生成された未解決のエラーが、(手動で Operations Manager からクリアされた後でも) 定期ヘルス・チェックアップ・モニターによって継続的に報告される

IBM Director エージェント 5.10.x では、WinEvent ツール (WinEvent.exe) によって生成されるエラーは、対応するハードウェア・コンポーネントについて Director エージェントで保守されている内部ヘルス状態にも影響します。保存されている状態は、そのコンポーネントの定期ヘルス・チェックアップ・モニターによって報告されるヘルス状態に影響します。結果として、Operations Manager でエラーが手動でクリアされた後でも、そのエラーが Director エージェント・レベルでクリアされるまで、定期ヘルス・チェックアップモニターはそのエラーを報告し続けます。

IBM Director エージェント 5.20.x 以降では、WinEvent によって生成されるイベントは、ハードウェア・コンポーネントについて Director エージェントの内部で保守されているヘルス状態に影響しません。

解決策/回避策: WinEvent.exe を使用して、重大度レベル 0 の対になるイベント (同じイベント ID) を生成し、ハードウェア・コンポーネントについて Director エージェントで保守されているエラー状態をクリアしてください。別の方法として、IBM¥director¥cimom¥data¥health.dat ファイルと、管理対象システム上の IBM¥director¥cimom¥data¥health.dat¥*.evt ファイルすべてを削除し、システムを再起動することによって、WinEvent.exe で生成された未解決のエラーをすべてクリアできます。

9. IBM リモート管理アダプター (RSA) II でのログオンまたはログオフについて、Operations Manager でイベントが生成されない

IBM リモート管理アダプター (RSA) II でのログオンまたはログオフについて、Operations Manager でイベントが生成されません。

解決策: IBM リモート管理アダプター II の最新ファームウェアをインストールしてください。

10. RSA-II イベント・ログがキャパシティーしきい値を超えているか、またはフルになっている場合、Operations Manager でアラートが生成されない

RSA-II イベント・ログがキャパシティーしきい値を超えているか、またはフルになっている場合、Operations Manager でアラートが生成されません。

解決策: IBM リモート管理アダプター II の最新ファームウェアをインストールしてください。

11. OSA IPMI ドライバーをアンインストールしても、予期される「ソフトウェアが見つからない」エラーが表示されない

OSA IPMI ドライバーを管理対象システムからアンインストールすると、システム・リブートが行われるまで、「ソフトウェアが見つからない」エラーではなく「ソフトウェア障害」警告が出されます。OSA IPMI ドライバーが Windows プラグ・アンド・プレイに準拠していないことが、このエラーの原因です。リブートが行われるまで、このドライバーは除去されていても、まだ Windows カーネルのシステムに存在します。

解決策: IBM サポート・サイトにリストされているシステムの場合、Microsoft IPMI ドライバーを OSA IPMI ドライバーの代わりに使用してください。Microsoft IPMI ドライバーは、Windows Server 2003 R2 では、オプションのハードウェア管理フィチャーとしてインストールすることができます。Windows Server 2008 以降では、自動的にインストールされます。

12. Hardware Management Pack がインストールされていない Operations Manager 管理サーバーで、Hardware Management Pack についての外部ハードウェア技術情報が使用できない

IBM Hardware Management Pack がインストールされていないサーバーで Operations Manager コンソールを使用している場合、IBM ハードウェア・アラートに関する外部知識ページは使用できません。

これらの IBM 知識ページに Operations Manager コンソールからアクセスできるようにするには、IBM Hardware Management Pack をローカル側にインストールしておく必要があります。

回避策: ハードウェア技術情報にアクセスするには、IBM Hardware Management Pack がインストールされている管理サーバーで Operations Manager 2007 コンソールを使用してください。

13. System x Power Data Chart がマルチノード・サーバーで使用できない

System x Power Data Chart を使用してマルチノード・サーバー (System x3850 X5、System X iDataPlex dx360 M4 など) の電源情報をモニターすることは、このリリースではサポートされていません。

回避策: 従来の方法を使用して電源データをモニターしてください。

BladeCenter とそのモジュールのディスカバリーに関する問題

このセクションに記載されている問題は、BladeCenter とそのモジュールのディスカバリーに関連しています。

BladeCenter Advanced Management Module (AMM) を最新のファームウェア・レベルに保っておくことが重要です。AMM のファームウェア・レベルが古い場合は、すべてのモジュールを検出できないことがあります。最新の AMM ファームウェアへのアップグレードについては、「Upgrading AMM」を参照してください。

また、BladeCenter を正しく検出およびモニターするためには、BladeCenter SNMP 設定を正しく構成しておく必要があります。ユーザーズ・ガイドの指示に従って BladeCenter の SNMP 設定をセットアップし、Operations Manager の「検出ウィザード」で BladeCenter をネットワーク・デバイスとして検出してください。

1. BladeCenter AMM と、複数の NIC を持つ管理サーバーとの間に複数のネットワーク接続がある場合、その管理サーバーは、BladeCenter を確実に検出することができない

ディスカバリーの後で BladeCenter が Operations Manager コンソールにネットワーク・デバイスとして表示されず、またディスカバリー対象の管理サーバーに、BladeCenter AMM に対する複数のネットワーク接続がある場合、そのディスカバリーは「マルチ NIC バインディングでの SNMP」問題の影響を受けます。結果として、BladeCenter のディスカバリーは中断される可能性があります。

回避策: 管理サーバー上の他の NIC をすべて無効にするか、または他の方法で NIC を AMM から切断されたままにすることによって、管理サーバーと BladeCenter AMM とのネットワーク接続を 1 つだけにしてください。

2. BladeCenter の完全ディスカバリーに時間がかかる

BladeCenter におけるネットワーク・デバイス・ディスカバリーが終了した後、BladeCenter モジュール・ディスカバリー・プロセスが始まるまで、2 時間ほどかかる場合があります。また、すべての BladeCenter モジュール・ディスカバリー・プロセスが終了し、それらの最初のヘルス状態が初期化され、すべての状態およびプロパティが完全に Operations Manager コンソールに取り込まれるまで、6 時間ほどかかることもあります。

回避策: デフォルトのモニター間隔の値を無効にして、より短い間隔に設定してください。オーバーライドについて詳しくは、Operations Manager のオンライン・ヘルプを参照してください。

BladeCenter のヘルス・モニターに関する問題

このセクションに記載されている問題は、BladeCenter のヘルス・モニターに関連しています。

BladeCenter Advanced Management Module (AMM) を最新のファームウェア・レベルに保っておくことが重要です。AMM のファームウェア・レベルが古い場合は、必要なヘルス状態のすべてを取得できないことがあります。AMM のファームウェアのアップグレードについては、「Upgrading firmware」を参照してください。

BladeCenter を正しくモニターするためには、BladeCenter SNMP 設定を正しく構成しておく必要があります。BladeCenter SNMP 設定の指定に関するユーザズ・ガイドの指示に従って、設定を指定してください。

1. Operations Manager 2007 は、Windows Server 2008 で SNMP トラップ・データを受信できない

Windows Server 2008 が稼働している Operations Manager 管理サーバーで、BladeCenter を正常に検出できる場合、System Center Operations Manager 2007 で使用可能な特定のホット・フィックスがインストールされていなければ、BladeCenter からの SNMP トラップが Operations Manager に伝搬されない場合があります。

詳しくは、「System Center Operations Manager 2007 cannot receive SNMP trap data when you use a Windows Server 2008-based computer or a Windows Vista-based computer as a proxy agent for SNMP devices」(<http://support.microsoft.com/kb/958936/en-us>) を参照してください。

解決策: Windows Server 2008 のホット・フィックスを、BladeCenter を管理するよう指定されている Operations Manager 管理サーバーにインストールしてください。

2. Microsoft の Network Device Monitoring Library がインストールされている場合、その重大度に関係なく、クリティカルな「SNMP トラップ生成アラート」が BladeCenter イベントごとに報告される

Microsoft によって System Center Essential 2007 用に作成された Network Device Monitoring Library 管理パックは、受信する SNMP トラップのすべてをクリティカル・エラーと判断し、十分な関連データを SNMP トラップから取り込みません。この管理パックは BladeCenter を管理していないため、IT 管理者の混乱を招く可能性があります。

解決策: Network Device Monitoring Library 管理パックを Operations Manager から削除してください。

3. 基本管理モジュールを BladeCenter から削除しても、Operations Manager に対してアラートは生成されない

BladeCenter の基本管理モジュールは、物理的に BladeCenter から取り外されるとき、その Operations Manager 管理サーバーへのオリジナル接続が存在しなくなるため、Operations Manager に対してアラートを生成できません。

注: スタンバイ管理モジュールには、基本管理モジュールとは異なる IP アドレスが必要です。

解決策/回避策: 基本管理モジュールに加えてスタンバイ管理モジュールもモニターするように Operations Manager をセットアップします。基本管理モジュールの取り外しに関するイベントは発生しませんが、BladeCenter のヘルス・モニター全体を対象とすることができます。スタンバイ管理モジュールで管理したい BladeCenter を追加するときに、そのスタンバイ管理モジュールを一時的にアクティブ管理モジュールにする必要があります。

4. BladeCenter ストレージ・モジュールがモニターされない

Hardware Management Pack バージョン 5.0 では、BladeCenter ストレージ・モジュールはモニターされません。

回避策: BladeCenter ストレージ・モジュールとそのディスク・ドライブを管理するには、RAID SAS スイッチ・モジュール (RSSM) を BladeCenter で使用してください。

5. BladeCenter マルチスロット・ワイド・ブレードが、シングルスロット・ワイドとして報告される

BladeCenter の AMM がファームウェア・レベル BPET50C で動作している場合、BladeCenter マルチスロット・ワイド・ブレードがシングルスロット・ワイドで報告されます。

回避策: AMM ファームウェアをレベル BPET54D 以降にアップグレードするか、レベル BPET48N にダウングレードしてください。

6. BladeCenter メディア・モジュールが、メディア・トレイの部品番号およびシリアル番号として空の値を報告する

BladeCenter メディア・モジュールが、メディア・トレイの部品番号およびシリアル番号として空の値を報告することがあります。

回避策: AMM ファームウェアを最新ファームウェア・レベルにアップグレードしてください。

7. AMM に極度の負荷がかかっている場合、BladeCenter はすべての SNMP トラップを送信できない

BladeCenter の AMM に負荷がかかりすぎる極端な状態が発生する場合があります、このとき BladeCenter は、Hardware Management Pack が Operations Manager に報告するために必要な SNMP トラップの一部を送信できません。

注: このような状況が発生することはまれです。BladeCenter シャーシにおけるコンポーネントすべてに致命的な障害が発生した場合など、極端な条件でのみ考えられます。

8. BladeCenter メディア・モジュールのモジュール名が、一定期間「使用不可 (Not available)」と表示されることがある

BladeCenter メディア・モジュールの名前は時間間隔ベースで収集されるため、新しく取り付けられたメディア・モジュールの名前は、次の間隔で正しく収集されるまで「使用不可 (Not Available)」と表示されます。

メディア・モジュールのアラート・ソースはモジュール名そのものであるため、モジュールが取り付けられた時点からモジュール名が収集される時点までに発生したアラートについて、そのアラート・ソースが「使用不可 (Not Available)」と表示されることがあります。

解決策/回避策: 現時点では回避策はありません。

Operations Manager に関するヒント

このセクションのトピックには、Operations Manager における、いくつかのヒントおよび情報があります。

1. 管理パックを削除して再インポートする動作が速すぎると、その管理パックで検出されたオブジェクトが消える

管理パックを削除して再インポートする動作が速すぎると、その管理パックで検出されたオブジェクトが消えてしまうことがあります。MP ファイルを再インポートするまで十分に待たない場合に、Operations Manager に以前追加された管理対象システムが、Operations Manager コンソールに表示されないことがあります。

この問題について詳しくは、「Discovery information is missing after you delete and then reimport a management pack in Microsoft System Center Operations Manager 2007」の記事 (<http://support.microsoft.com/kb/943307>) を参照してください。

解決策/回避策: 上記の Microsoft の知識ベース記事で『RESOLUTION』セクションを参照してください。

2. 管理対象サーバーが複数の管理グループで管理されている場合、異なるヘルス状態で表示されることがある

複数の Operations Manager 管理グループにあるサーバーを管理するには、それらのサーバーが属している管理グループすべてに、同じバージョンの Hardware Management Pack を使用してください。そうしないと、整合性のないヘルス状態、またはサーバーのアラート・レポートが表示されることがあります。

また、Hardware Management Pack によって管理されているヘルス状態のいくつかは時間間隔ベースで更新されるため、サーバーが異なる管理グループで異なるヘルス状態になるタイミングが生じる可能性があります。

解決策/回避策: すべての管理グループで、管理パックを同じバージョンにしてください。

3. 状態変更が最上位レベルにロールアップされるまで、長い時間がかかる

最上位レベル・オブジェクトの最終ロールアップ状態が反映されるまで、Operations Manager コンソールで長い時間がかかることがあります。

回避策: 手動での最新表示を行って (**F5** を使用)、Operations Manager コンソールに強制的に最新データを表示するか、オブジェクトの最新ヘルス状態を「詳細状態 (Detail state)」ビューで調べてください。

4. Operations Manager 状態ビューで、左右にスクロールしただけでデータが消える

ヘルス状態ビューでいくつもの列を調べるため、頻繁に左右にスクロールすると、データが消えてしまうことがあります。

回避策: 手動で最新表示を行って (**F5** を使用)、Operations Manager コンソールに強制的に最新データを表示するようにします。

5. Operations Manager コンソールを使用してヘルス状態をリセットした後、状態ビューの最上位レベルまで状態がロールアップされるまでに 2 分以上かかる

「ヘルス エクスプローラー」でヘルス状態をリセットした後、最新データが最上位の状態ビューまでロールアップされ、現在のヘルス状態が反映されるまで、2 分以上かかることがあります。

回避策: 手動での最新表示を行って (**F5** を使用)、Operations Manager コンソールに強制的に最新データを反映するようにします。

6. 一部の Operations Manager オブジェクトの Path プロパティの値が空か、または正しくない

一部の Operations Manager オブジェクトの Path プロパティの値が空か、または正しくない場合があります。

IBM System x および x86/x64 ブレード・サーバー: いくつかのオブジェクト・クラスの Path プロパティが空である可能性があります。ルート・コンピューター・ビューにあるシステムすべての Path プロパティが空になっていますが、これらのオブジェクトの Path name プロパティは空ではありません。Hardware Management Pack は、作成するオブジェクトすべての Path プロパティを明示的に無効にするわけではありません。オブジェクトの Path プロパティは、そのオブジェクトが空のクラスを使用するクラスに基づいていて、Hardware Management Pack が値を明示的にオーバーライドしない場合、空になることがあります。

IBM BladeCenter: IBM BladeCenter シャーシの Path プロパティの値が、Operations Manager の「監視」ペインの「詳細」ビューでは正しくても、表形式の状態ビューでは正しくない可能性があります。

回避策: Path の値を状態リスト・ビューで使用する前に、Operations Manager コンソールの「詳細」ビューで値を見つけてください。

7. 管理パックを削除して再インポートした後であっても、Operations Manager 状態ビューのビューおよび列がデフォルト設定に戻らない

Microsoft Operations Manager Console には、セッション間にわたって記憶される個人用ビューのための「持続的な」設定が実装されています。このようなビューは、Hardware Management Pack が削除され、再インポートされても記憶されています。

解決策/回避策: Operations Manager 2007 R2 では、ビューを個人用に設定するときに「既定値に戻す (Revert to default)」をクリックしてください。

8. Operations Manager ダッシュボード・ビューのビューそれぞれの高さを個別に調整できない

Hardware Management Pack は Operations Manager ダッシュボード・ビューを使用して、2 つの並列レベルの情報を Operations Manager コンソールに表示します。

例えば、「IBM System x および x86/x64 ブレード・サーバー (IBM System x and x86/x64 blade servers)」ビューは、2 つの個別の状態ビュー「IBM System x および x86/x64 ブレード・サーバー状態 (IBM System x and x86/x64 blade servers state)」および「IBM Systems Hardware コンポーネント状態 (IBM Systems Hardware Components state)」が入ったダッシュボード・ビューです。この場合、どちらのビューもダッシュボード・ビューの一部であるため、1 つの状態ビューの高さをもう 1 つのビューと別に調整することはできません。

解決策/回避策: 現時点では解決策または回避策はありません。

9. 「すべての IBM System x および x86/x64 ブレード・サーバー (All IBM System x and x86/x64 Blade Servers)」状態ビューでブランク・スペースを右クリックしても、コンテキスト・メニューが表示されない

「すべての IBM System x および x86/x64 ブレード・サーバー状態 (All IBM System x and x86/x64 Blade Servers state)」ビューで、最後のシステム行と水平スクロール・バーとの間のブランク・スペースを右クリックしても、コンテキスト・メニューが表示されません。

解決策/回避策: この状態ビュー内の他の領域を右クリックしてください。

10. Operations Manager 2007 SP1 エージェントが、Windows 7 または Windows Server 2008 R2 が稼働しているコンピューターにインストールされている場合、警告アラート「Processing backlog events taking long time error」が表示される

Operations Manager 2007 SP1 エージェントが、Windows 7 または Windows Server 2008 R2 が稼働しているコンピューターにインストールされている場合、**EventID 26017** が記録されることがあります。

この後、警告アラート

「Processing backlog events taking long time error」

が表示されます。

解決策/回避策: 回避策は不要です。イベントを無視するか、または Operations Manager 2007 R2 にアップグレードしてください。詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/974722> を参照してください。

11. Operations Manager コンソールに中国語 (簡体字) の文字列が表示される

別の言語環境 (英語、フランス語、または日本語) で実行しているときに、Operations Manager コンソールに中国語 (簡体字) の文字列が表示されます。

これは Operations Manager の問題で、Microsoft に既に報告されています。これらの文字列の一部とその英語への翻訳を、以下に示します。

- IBM 授权系统发现: IBM Licensed Systems Discovery
- IBM 授权刀片系统发现: IBM Licensed Blade Systems Discovery
- IBM 授权基本系统发现: IBM Licensed Base Systems Discovery
- IBM 未授权系统发现: IBM Unlicensed Systems Discovery
- IBM 授权 Flex 系统发现: IBM Licensed Flex Systems Discovery
- IBM 许可 Flex 系统: IBM Licensed Flex System
- IBM 授权系统: IBM Licensed Systems
- IBM 未授权系统: IBM Unlicensed Systems

図 1. *Operations Manager* コンソールでの中国語 (簡体字) 文字列の例

解決策/回避策: 現時点では解決策はありません。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web にある資料は、この製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
MW9A/050
5600 Cottle Road
San Jose, CA 95193
U.S.A.

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および `ibm.com`[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、PostScript は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Cell Broadband Engine、Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Intel、Intel Xeon、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。



Printed in Japan